

自営等BWAに対する期待

- ① 道内ブロードバンド空白地域における通信環境の構築手段として
- ② スマート農業、インフラ保守点検、配送等の利用ニーズに最適化された通信ネットワークの選択肢として

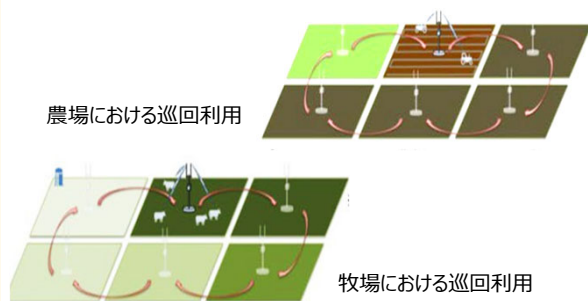
本調査検討会が目指すもの

- ① 自営等BWAの運用機能をさらに高めるための「新たな3つの運用形態」を提案
- ② その社会実装を実現するために必要となる周波数共用条件等の技術的条件の導出と、周波数調整手順の可視化
- ③ 新たな運用形態に相応しい分野横断的な利活用シーンを、アンケート調査等により把握

<新たな運用形態1>

基地局（空中線）移設手順の簡素化

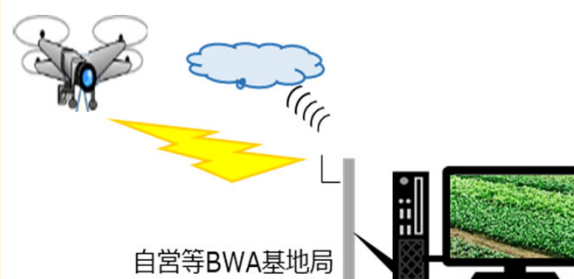
イメージ：自己土地内で複数のエリア化が必要な場合、
工事設計の変更手順を簡素化(許可→届出)



<新たな運用形態2>

上空での運用

イメージ：端末をドローンに搭載し、撮影した映像をリアルタイムで地上へ伝送する等の利用を可能に



<新たな運用形態3>

準同期方式による運用

イメージ：上り回線の通信比率を通常より大きく確保し
精細な画像伝送を可能に



調査検討で得られたアウトプットの活用

- 新たな運用形態の円滑な社会実装を目指し、関係の電波法令等の改正に反映
- 既存の無線システムとの周波数調整にかかるhow toを、利便性のある解りやすい手順書として取りまとめる